



信太の森ニュース

No. 44

2023年10月1日

文責 田丸八郎



ほぼ完成した「信太山丘陵里山自然公園管理棟」

この夏「信太山丘陵里山自然公園管理棟」が完成しました。完成といってもまだ事務室は設置されていません。玄関に入れば広々とした吹き抜けの空間が広がっています。冷暖房も完備し、広間中央には可動式の間仕切りもあり、これからの公園協議会活動の拠点施設として利用されることとなります。

毎年9月に和泉市が実施する「みどりの観察会」が9月16日に開催されますが、今年は来年9月の正式開園を前にプレイベントとして開催されます。

その開催に向けた打ち合わせで8月8日に完成したばかりの管理棟に初めて入りました

館内は、まだ事務室等の設備が設置されておらず、広々とした床の上に車座になって打ち合わせを行いました。

公募した「みどりの観察会」参加者の公園敷地内及び惣ヶ池湿地の案内の他「草木染」「クラフト作り」「ピザ窯」「のこぎり体験」など当日散策中に立ち寄った来場者にも楽しんで貰おうというもので、当日は完成した管理棟も開放してクラフトや草木染などが行われる予定です。

管理棟からは遥か彼方に岩湧山が望め、目の前に草原が広がっていて眺めは素晴らしく自然景観は申し分ありませんが、名ばかりの管理棟にならないことを願っています。

NPO法人 信太の森FANクラブ

事務局：〒594-0013 大阪府和泉市鶴山台3丁目4番1-202

電話 0725-45-7357 090-1225-9159

E-mail tamahati@amber.plala.or.jp

公園協議会の動きと活動

来年9月にオープンする「里山自然公園」西エリアの正式開園に向けたプレイベントが9月16日（土）に完成したばかりの「信太山丘陵里山自然公園管理棟」を開放して開催されました。



午前10時から公園協議会の増田会長（大阪公立大）の挨拶の後、公募した「みどりの観察会」参加者40数名を3班に分け、公園西エリアと惣ヶ池湿地を巡る観察会とバツタ捕りが行われました。

当FANクラブは観察会の案内役を務めたほか、「ノコギリ体験・竹馬とカッポリ遊び」を担当し、20数名の参加者に丸太切りと竹馬などを楽しんでもらいました。

その他館外では、ピザ窯でピザを焼いてふるまわれ、捕まえたバツタを飛ばして飛距離を計ったり、ロープワークが。冷房が効いた館内では草木染、クラフト作りが行われました。

この日は、チラシや広報を見てきたという直接参加した人も含めて約70名の参加者がありました。

大雨により大量の土砂が湿地の流入

6月2日、台風2号の影響で大雨が降りました。和泉市では警戒アラートが2回鳴りました。筆者が住む信太山丘陵では水の心配は無いと常々思っていたのですが、翌日惣ヶ池湿地に行ってみると湿地奥（南側）の空池（シソクサが復活した湿地）の三分の一が土砂で埋まっていました。

水分を含んだ土砂をバケに入れて運び上げるのは大変な作業で長続きせず、3日掛けて何とか土砂の除去作業を終えることができました。



した。

この土砂がどこから流れてきたのかを調べてみると、その湿地の最奥にある洗い場の奥が抉られたようになっており、その土砂が押し流されたようです。今までの洗い場が奥深い洗い場になってしまいました。



積み上げた土砂を元に戻し、その土砂が流出しないようにするにはどうしたらいいのか土木工場の経験が無い私たちには難しく、思案ばかりしているところです。

大木アベマキの倒木作業

今年もオオタカが巣作りを始めた気配がありました。外周柵補修作業で杭を打つ音や電動ドライバーの大きな音がするので補修作業を一旦中断し、繁殖の様子を観ていくことに。

しかし、作業を中止した直後2、3度鳴声を聞いたものの巣を放棄してしまいました。

巣の放棄を確認後、外周柵の補修を一旦終えて、懸案であった南側入口近くにある根元から二股に別れたアベマキの大木の一本を切り倒すことに。

この大木を切倒すにはFANクラブ所有の

小さなチェーンソーでは歯が立ちません。森林ボランティアで活躍している谷口さんをお願いして大きなチェーンソーで切倒すことにしました。



6月7日6名の会員が参加して、谷口さんの指示に従って高所に掛けたロープを5人で引いて無事切倒すことができました。

6月21日には残り1本の太木から出ている二本の大きな枝を高枝切り用の鋸を使って切り落とすことに。径20cm位の大きな枝2本を数人で交替しながらやっと切り落とすことができました。これで枯れ枝落下による事故の心配がなくなりました。残った本体の一本はスズメバチの被害を避けるためにスズメバチの活動が終わった12月頃に切倒す予定にしています。

「信太の森のキノコ展」

信太の森ふるさと館では、2年に一度信太山丘陵の自然に関わる資料の展示を行っています。筆者が「ふるさと館」協力会の一員として信太山丘陵の自然を紹介することになっており、2年に一度信太山丘陵の自然を写真などで紹介しています。

こうした関係でこれまでに信太の森FANクラブ会員の「写真・絵画展」を数度企画してきました。

今年は8月1日～9月3日まで「信太の森のキノコ展」を開催し、信太山丘陵で確認した154種のキノコうち84種と他地域の4種を写真と解説で展示しました。

キノコ展の開催に当っては、FANクラブ会員数名の方にパネル作成作業などご協力い

ただきました。ありがとうございました。



久しぶりに賑やかな観察会 (6・9月)

6月25日と9月24日のFANクラブ定例観察会は久しぶりに子ども達も参加する賑やかな観察会になりました。

6月は二家族7名(子ども3名)。二家族の母親が友達のように、子どもたちも一緒に遊びながら観察会を楽しんでいました。

ハラビロトンボやシオカラトンボを素手で捕まえる方法を教えてあげると喜んで挑戦。カナヘビの子どもを見つけては捕まえようと必死になっていました。



そのおばあちゃんと両親の一家族に単独参加の高齢女性1名の6名の参加がありました。

子ども達のお父さんは日本語がある程度話



せる自然大好きというデンマークの人。3日ほど前に惣ヶ池湿地にやってきた折にパンフレット渡しておいたところ家族で参加してくれました。

公園西エリアでは、本藤さんがエノコログサで作った“ウサギ”をプレゼント。子どもたちはそのプレゼントに喜んでいました。

アメリカミズキンバイが再繁殖

39号でアメリカミズキンバイ（ヒレタゴボウ）の除去で悪戦苦闘したことを書きました。この夏は何事もなく観察を楽しめるだろうと思いながら惣ヶ池湿地の木道を歩いていると湿地の中ほどに黄色い花を見つけました。1、2本程度ではありません。畳2枚分の広さで。

ズームアップして写真を撮ってみると按じたとおりアメリカミズキンバイでした。

この夏は猛暑続き。湿地で作業をする気にはなれませんでした。今除去しておかなければ後々大変な作業を強いられるので、午後4時過ぎに湿地に入って除去しました。

これでやれやれと思いきや今度は池の中で同じ植物が成長し始めたので放置できず、2回に分けて池にはいることに。

その後、抜き取る本数は少ないものの、あそこにも、ここにもその後何度か入って除去したのですが、まだまだ気が許せません。

惣ヶ池湿地にキツネ出現

“信太の森”には“白狐伝説”があり「葛の葉物語」として歌舞伎や浄瑠璃で演じられてきました。

こうした伝説が生まれるくらいですから信太山には昔からキツネが棲んでいたことは分かります。

2011年に信太の森ふるさと館で開催された「自然展」にホンドギツネの剥製が展示されていました。その時の説明書きに「19

81年（昭和56年）頃までいたとの噂があります」と書かれていました。

当クラブに上村さんという青年がいます。主に両生類、爬虫類などを専門とする若い会員で、昼間は働いているため夜に活動することが多い青年です。

3年程前にその上村さんから「夜バイクで走っていてキツネを見ました」と連絡を受けたことがあります。その時は、野犬の見間違いでは？とあまり気に留めることも無く今日に至っていました。

その彼が9月25日の夕刻、会費を納めたいと自宅まで来てくれました。その時に「惣ヶ池湿地の奥でキツネがいました」とスマホに録音したキツネの鳴き声を聴かせてくれました。

その鳴き声はネコやイヌでも無く「グウォーゴォー」喉を絞るような長く伸びる鳴声で



今まで聴いたことがないものでした。なんとも言葉で表現できない鳴声です。

ネットでキツネの鳴声を調べてみると上村さんが録音した鳴き声と殆ど同じでした。

昔話を聞きながら育った筆者は、犬はワンワン、キツネはコンコン又はケーンケーンと鳴くものと思っていましたが、目から鱗でした。

因みに「大阪府レッドリスト2014」によるとキツネは絶滅危惧Ⅰ類になっている希少な生き物です。